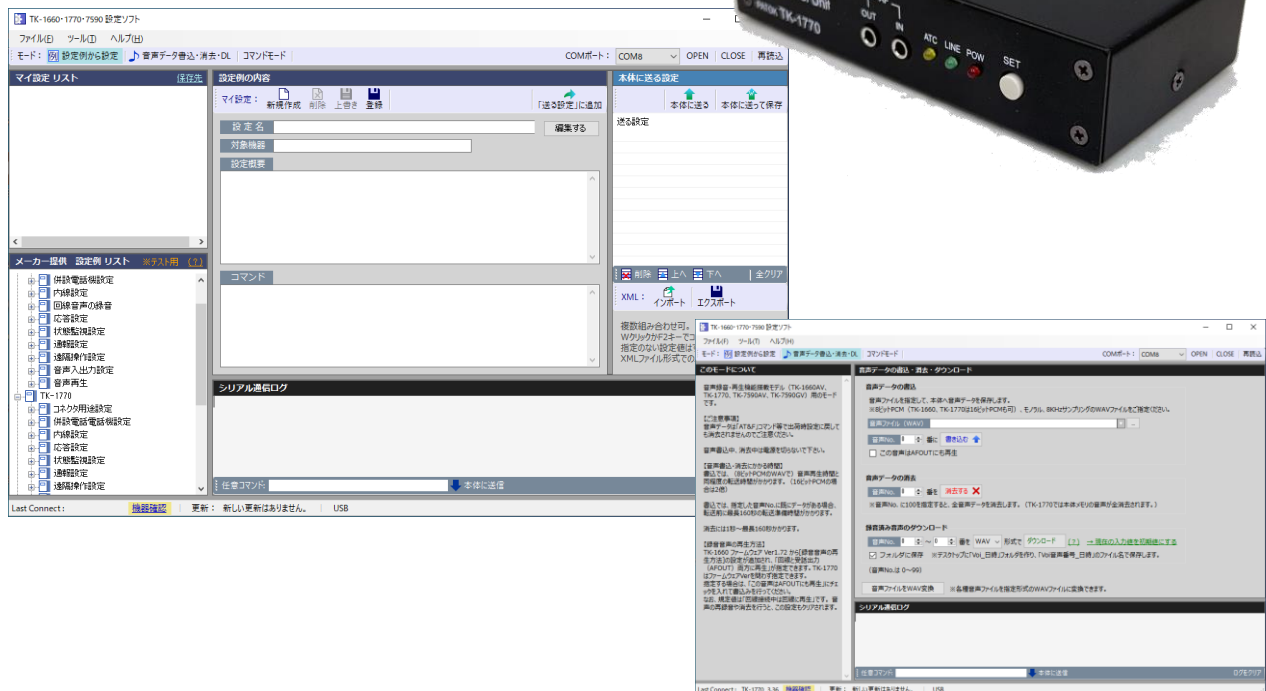


TK-1770

専用設定ソフトによる設定例

■目次

1	概要	1
2	設定の流れ	3
3	自動着信と識別自動着信	4
4	プッシュボタン操作で音声再生を行う (AVのみ)	5
5	プッシュボタン操作でON/OFFを行う	6
6	各動作状態の接点出力	8
7	併設電話機の使い方あれこれ	9
8	外線電話機から遠隔放送を行う	11
9	プッシュボタン操作で受話出力や送話入力 of 切換えを行う	12
10	グループ通報	13
11	24V回線での使用	14
12	疑似交換機のご案内	15



■ 1 概要

『TK-1660・1770・7590設定シフト』は、弊社NCU製品の専用設定ソフトです。

基本的な使い方についてはメニューバーの「ヘルプ」をご参照ください。

PCと本機とのシリアル通信においてはUSB接続による方法とRS-232C接続による方法があります。

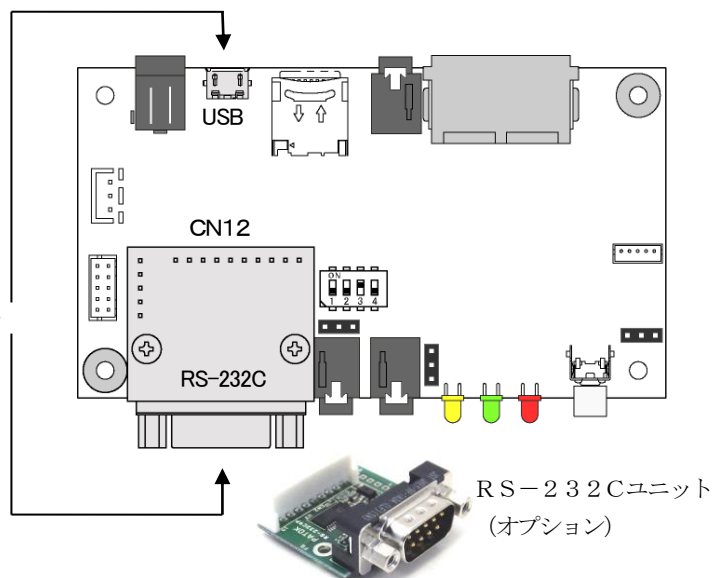
標準装備のUSB接続においては、マイクロUSBケーブルを使用します。

RS-232C接続の場合は、CN12にRS-232Cユニット（オプション）を装着しストレートケーブルを使用します。

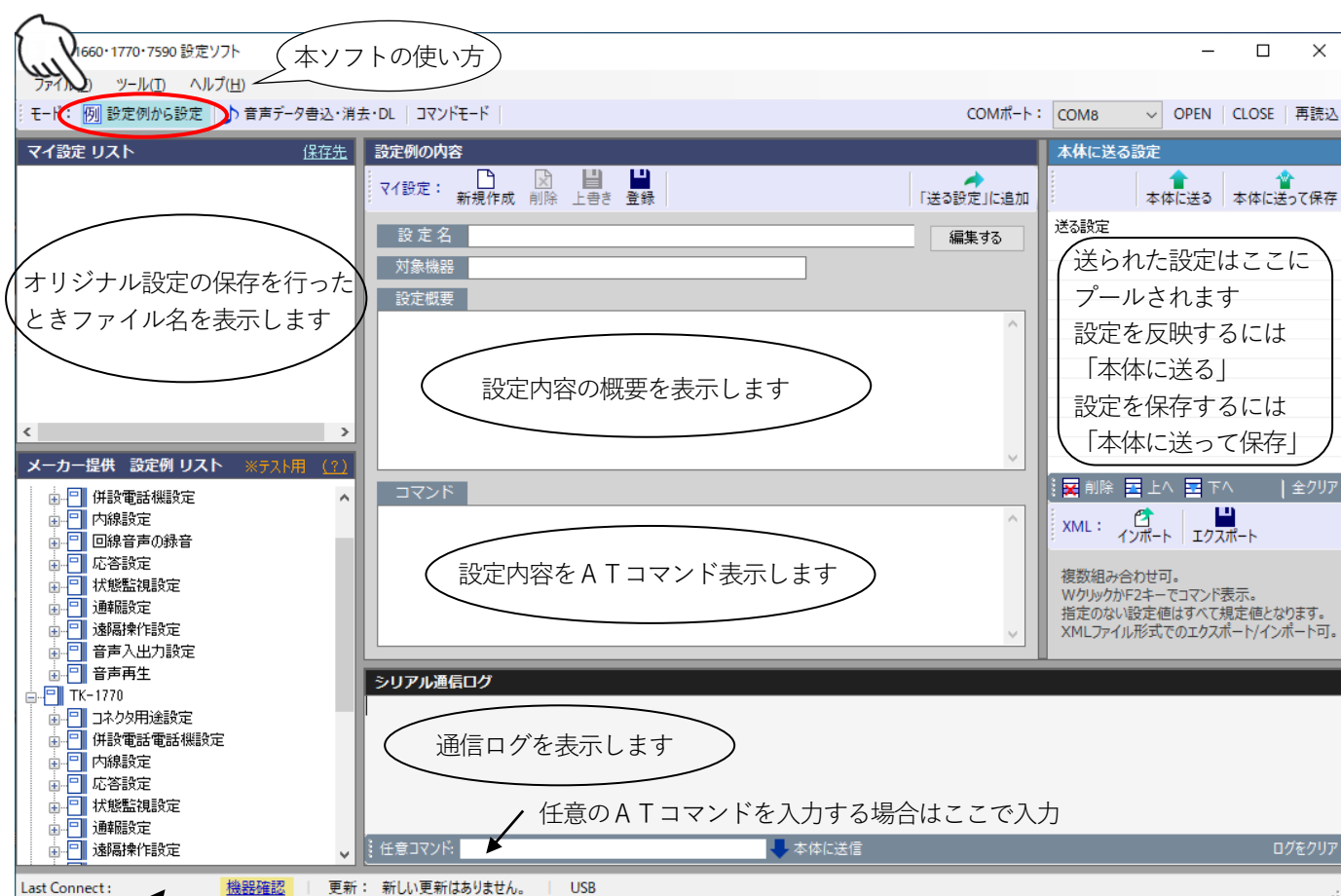
通信設定は自動です
COMポート指定の後OPEN



【図1-1】PCとのシリアル通信



【図1-2】オープニング設定画面



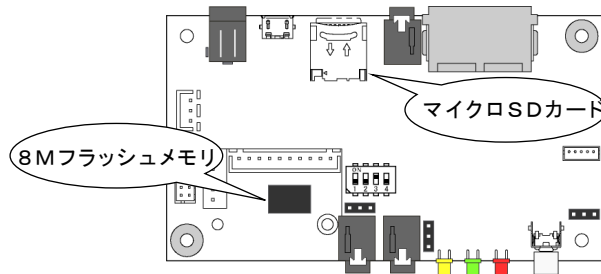
メーカーより設定ソフトの更新があった時、アナウンスされます
接続機器の形式とバージョンを表示します

[♪ 音声データの書込・消去・ダウンロード] について

- 音声録音・再生メモリー媒体では、本機搭載のフラッシュメモリーか、後付けのマイクロSDカードかを選択します。
- 音声メモリーは音声No.0～99までの100メッセージで
- ・音声No.0は、本装置が自動発着信を行うと最初に起動する音声メモリーです。録音していなければスルーし、通常動作します。
 - ・音声No.1～99は、通常使用の登録メモリー番号になります。

本機搭載8Mフラッシュメモリーでは合計約15分（16ビットPCMは約7分）の音声録音・再生が可能です。

マイクロSDカードを使えば長時間の音声録音・再生が可能です



【図1-3】音声録音・再生ポイント

【図1-4】音声データの書込・消去・ダウンロード画面

TK-1660-1770-7590 設定ソフト

ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)

モード: 例 設定例から設定 **音声データ書込・消去・DL** コマンドモード COMポート: COM8 OPEN CLOSE 再読込

このモードについて

音声録音・再生メモリー媒体は、TK-1770、TK-7590AVです。

【ご注意事項】
音声データは「AT&F」コマンド等で出荷時設定に戻しても消去されませんのでご注意ください。

音声書込中、消去中は電源を切らないで下さい。

【音声書込・消去にかかる時間】
書込では、（8ビットPCMのWAVで）音声再生時間と同程度の転送時間がかかります。（16ビットPCMの場合は2倍）

書込では、指定した音声No.に既にデータがある場合、転送前に最長160秒の転送準備時間がかかります。

消去には1秒～最長160秒がかかります。

【録音音声の再生方法】
TK-1660 ファームウェア Ver1.72 から【録音音声の再生方法】の設定が追加され、「回線と受話出力（AFOUT）両方に再生」が指定できます。TK-1770はファームウェアVerを問わず指定できます。

指定する場合は、「この音声はAFOUTにも再生」にチェックを入れて書込みを行ってください。

なお、規定値は「回線接続中は回線に再生」です。音声の再録音や消去を行うと、この設定もクリアされます。

音声データの書込・消去・ダウンロード

音声データの書込

音声ファイルを指定して、本体へ音声データを保存します。
※8ビットPCM（TK-1660、TK-1770は16ビットPCM可）、モノラル、8KHzサンプリングのWAVファイルをご指定ください。

音声ファイル (WAV) [選択] ...

音声No. 0 番に 書き込む ↑

☒ この音声はAFOUTにも再生

音声データの消去

音声No. 0 番に 消去する ×

※音声No.に100を指定すると、全音声データを消去します。（TK-1770では本体メモリの音声全消去されます。）

録音済み音声のダウンロード

音声No. 0 ～ 0 番に WAV 形式で ダウンロード (?) → 現在の入力値を初期値にする

☒ フォルダに保存 ※デスクトップに「Voi_日時」フォルダを作り、「Voi音声番号_日時」のファイル名で保存します。

(音声No.は 0～99)

音声ファイルをWAV変換 ※各種音声ファイルを指定形式のWAVファイルに変換できます。

シリアル通信ログ

任意コマンド: AT#VSD1

Last Connect: TK-1770 3.36 機器確認 更新: 新しい更新はありません。 USB

WAVファイルに変換

各種フォーマットの音声ファイルをWAVファイルに変換します。

※確認済フォーマット: wav mp3 wma ra avi mpe wmv
※ra (Real Audio) はReal Playerのインストールが必要です。
※Windows Media Playerで再生可能なファイルであれば、ほぼ変換可能です。
※WAVファイル同士の変換も可能です。
※動画ファイルから音声の抽出も可能です。

WAV変換オプション: 16 ビットPCM、モノラル、8KHzサンプリング に変換する。

変換ログ

ファイルを指定して変換 終了

「遠隔放送」で使用する場合 16ビットを推奨します

WAV変換では8ビットと16ビットの選択が出来ます。

「[1.2 外線電話機から遠隔放送を行う設定](#)」の音源には、16ビットで作成されることを推奨します。

ノイズ成分が抑えられます。

- マイクロSDカードで行う場合は、
先に「AT#VSD1」コマンドを指定しておく必要があります
(デフォルトは「AT#VSD0」でフラッシュメモリー指定)

■ 2 設定の流れ

具体的な動作例をあげ、『TK-1660・7590設定ソフト』における設定の流れを示して行きます。

これよりの各種設定は「出荷時設定」を基にしています。出荷時設定に戻すには「AT&F」コマンドを用います。
また、設定入力後は「AT&W」コマンドで設定の保存を行わない限り、電源を切ると設定は失われてしまいます。
本ソフトでは下図の④、「本体に送って保存」が、各種設定入力後に「AT&W」を付加した転送ボタンです。

● 「3回のコールで自動着信を行う」設定の例（次ページの例1）

手順①『メーカー提供 設定例リスト』ボックスより「応答設定」→「①呼出信号の検知回数」を選択

手順②『設定例の内容』ボックスより「送る設定に追加」を選択

手順③「コマンド・任意設定値の入力」設定ダイアログボックスの入力フォームに「3」を入力

手順④『本体に送る設定』ボックスより「本体に送る」を選択

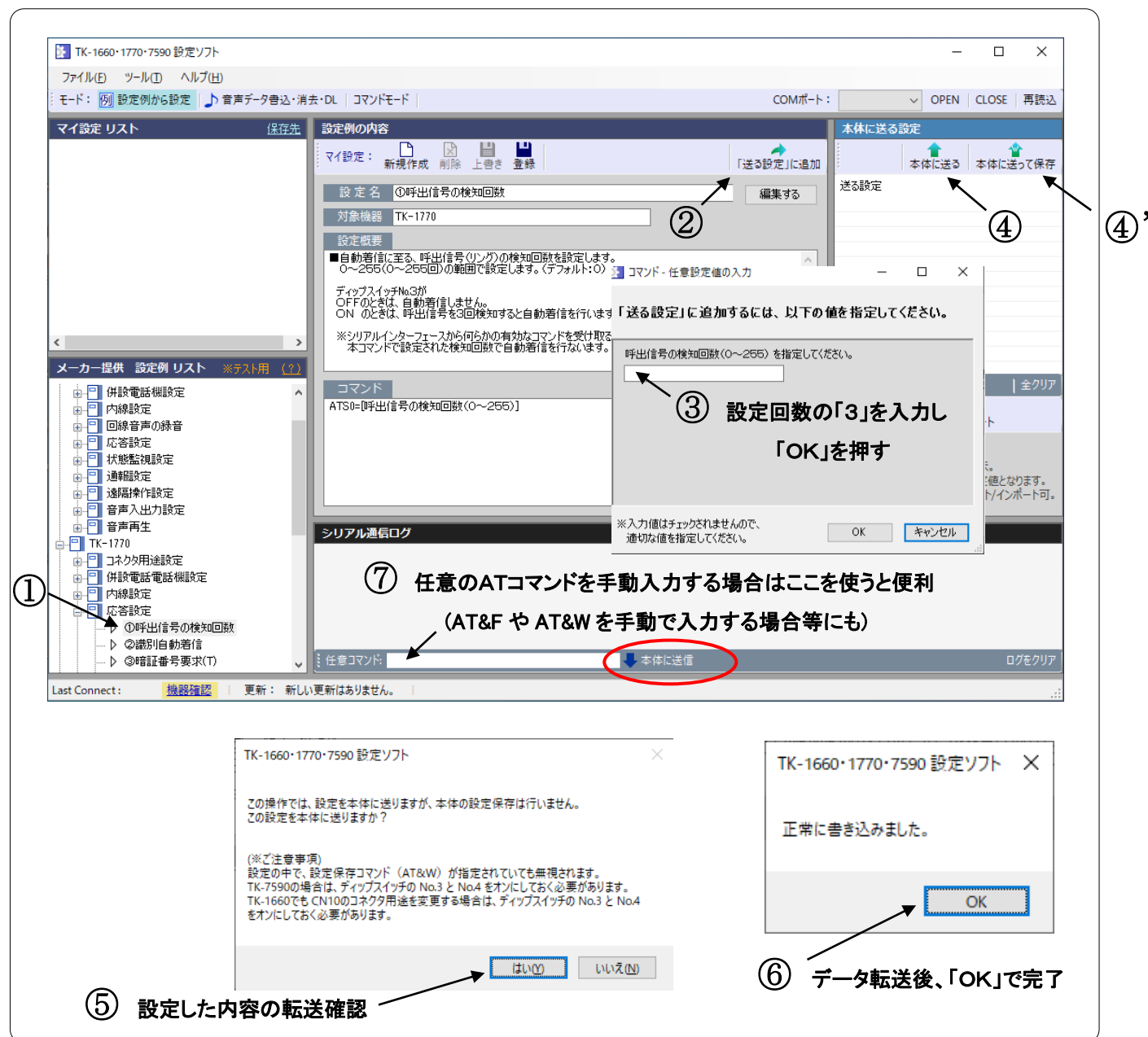
※他に設定項目が無く確定する場合は④、「本体に送って保存」を選択する。電源を外しても設定は保存されます。

手順⑤ 送信確認のダイアログボックスが出るので「はい」を選択

手順⑥ 結果報告のダイアログボックスが出るので「OK」を押す 以上

◎以降の各設定例では、基本的に「手順①」及び「手順③」のみの記載で進めます。

【図2-1】設定の流れ



■ 3 「自動着信」と「識別自動着信」の設定

A Vの場合は自動着信直後、「音声メッセージNo0」を再生します。録音していなければ通常動作します。

例 1) 3 回のコールで自動着信を行うには

手順 ①	応答設定 → ①呼出信号の検知回数
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに 3 を入力

例 2) 自動着信を行わないようにするには

手順 ①	応答設定 → ①呼出信号の検知回数
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに 0 を入力

例 3) 3 回のコールで識別自動着信を行うには (ナンバーディスプレイの回線に接続します)
(登録電話番号を 0827-24-0081 と 0827-24-1444 にした場合)

準備	本装置を、発信電話番号受信機能 (ナンバーディスプレイ) の回線に接続
手順 ①	応答設定 → ②識別自動着信
手順 ③	「相手先 1 の電話番号」入力フォームに 0827240081 を入力 (市外局番を省略することは出来ません)
〃	「相手先 2 の電話番号」入力フォームに 0827241444 を入力 (市外局番を省略することは出来ません)
手順 ①	応答設定 → ①呼出信号の検知回数
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに 3 を入力

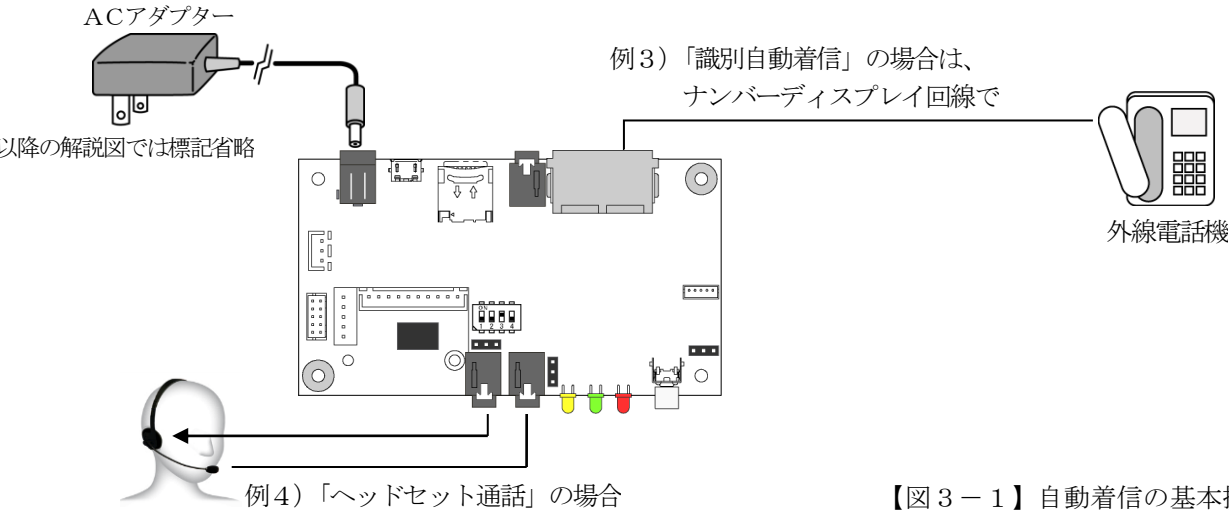
例 4) 自動着信後、コンデンサマイク式のヘッドセットを使って外線電話機と音声通話を行うには

手順 ①	応答設定 → ①呼出信号の検知回数
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
手順 ①	音声入出力設定 → 送話入力 (AF I N) の信号源
手順 ③	「送話入力の信号源」入力フォームより、2 : バイアス有のマイク入力を選択

まとめ

3 回のコールで電話番号 0827-24-0081 からの識別自動着信後、ヘッドセットを使って相手先と通話を行うには

準備	本装置を、発信電話番号受信機能 (ナンバーディスプレイ) の回線に接続
手順 ①	応答設定 → ②識別自動着信
手順 ③	「相手先 1 の電話番号」入力フォームに 0827240081 を入力
手順 ①	応答設定 → ①呼出信号の検知回数
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに 3 を入力
手順 ①	音声入出力設定 → 送話入力 (AF I N) の信号源
手順 ③	「送話入力の信号源」入力フォームより、2 : バイアス有のマイク入力を選択



【図 3 - 1】自動着信の基本接続

■ 4 プッシュボタン操作で音声再生を行う設定 (A Vのみ)

各種機器のON/OFF状況を音声確認することが出来ます。CN3に対象機器を最大8接点接続することが可能です。自動着信の後、プッシュボタン式電話機のプッシュボタン操作で、予めアップロードした音声の再生を行います。音声のアップロードは【図1-3】で示す[\[音声データ書き込み/消去 設定\]ウインドウ](#)で行います。

●[1]～[8]をプッシュすると、

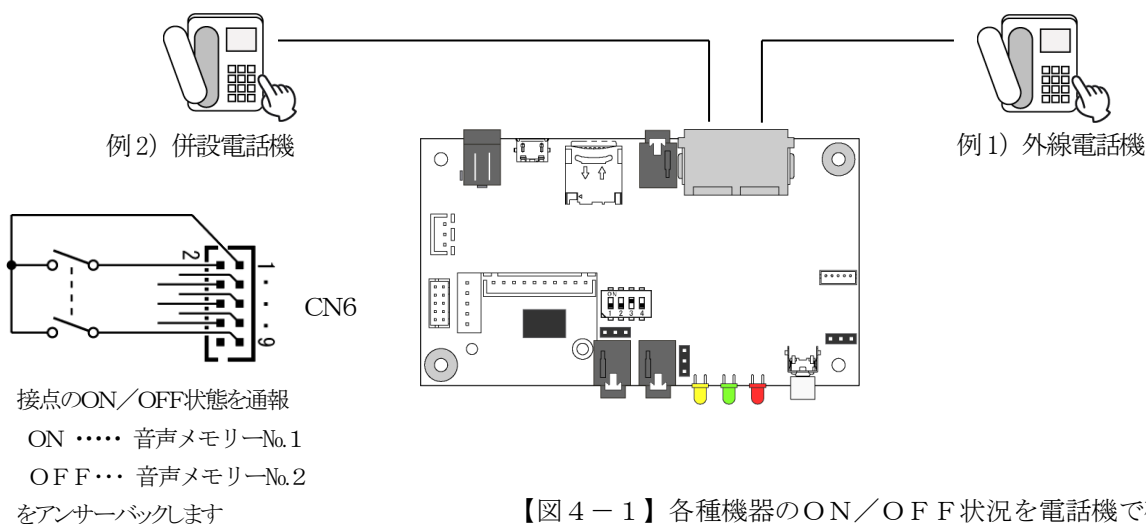
CN3のNo.2～No.9が、ONであれば音声メモリNo.1を、OFFであれば音声メモリNo.2を再生する場合
(予め音声メモリNo.1とNo.2にメッセージを録音しておく必要があります)

例1) 自動着信後、外線電話機の [1] ～ [8]をプッシュすると、No.2～9の接点ON/OFF状態をアンサーバックする

手順 ①	音声再生 → ④外線電話機でCN3の接点
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力

例2) 併設電話機の [1] ～ [8]をプッシュすると、No.2～9の接点ON/OFF状態をアンサーバックする

手順 ①	音声再生 → ⑤併設電話機でCN3の接点
------	----------------------



【図4-1】各種機器のON/OFF状況を電話機で確認

●[1]～[8]、[0]、[*]、[#]をプッシュすると、音声メモリNo.1～No.12を再生する場合 (予め音声メモリNo.1～No.12にメッセージを録音しておく必要があります)

例1) 自動着信後、外線電話機の [1]～[8]、[0][*][#]をプッシュすると、音声メモリNo.1～No.12を再生する

手順 ①	音声再生 → ②外線電話機で再生
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力

例2) 併設電話機の [1]～[8]、[0][*][#]をプッシュすると、音声メモリNo.1～No.12を再生する

手順 ①	音声再生 → ③併設電話機で再生
------	------------------

※再生中の音声メモリについて

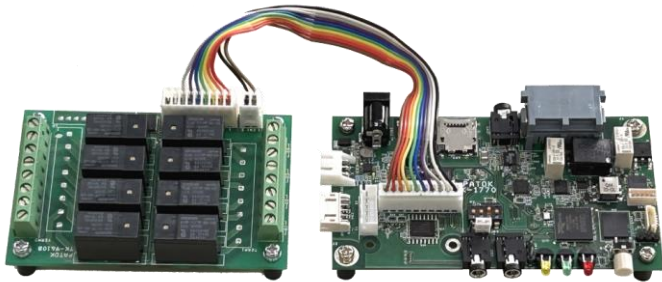
再生中に、現在の再生を中止し、他の音声を再生したいときは、「AT!VC1」を設定します。デフォルトは「AT!VC0」で、現在の再生が終わってから、次の再生を行います。

■ 5 プッシュボタン操作でON／OFFを行う設定

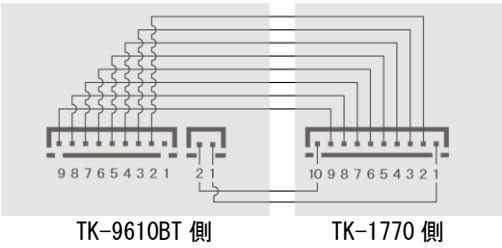
自動応答中に、プッシュボタン式電話機のプッシュボタン操作で、各種機器のON／OFFを行います。
・オプションのリレーボード(TK-9610BT)を接続すると、8回路リレーのON／OFFができます。(【図5-1】を参照)

●TK-9610BTを使う場合

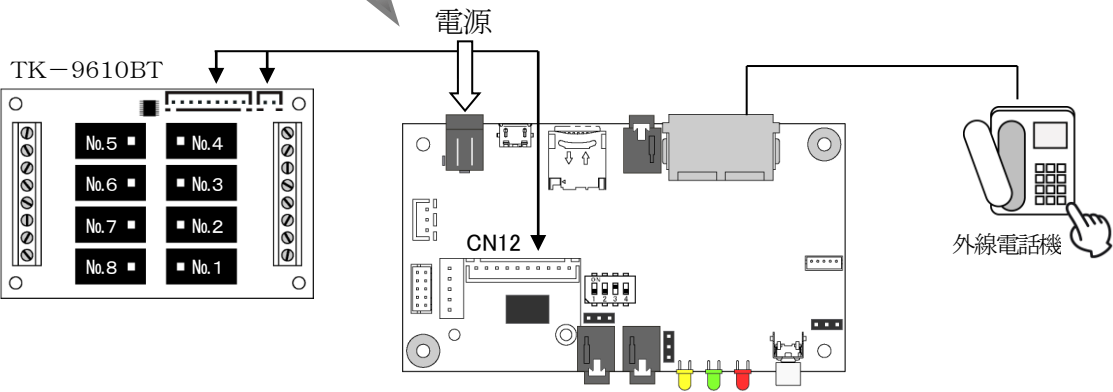
リレーボード (TK-9610BT) の制御は、CN12の出力にて行います。
以下の各例) で示す「動作設定」を行った後は、「本体に送って保存」を行い、本装置の電源を入れ直してください。



【図5-1】TK-9610BTを専用ケーブルで接続



★電源接続の手順
設定中はリレーボード(TK-9610BT)はCN12からはずしておく
【図2-1】の④'「本体に送って保存」を行い一旦電源OFF → TK-9610BT を接続して再度電源ON



【図5-2】CN12をTK-9610BT制御専用コネクターとして設定、各種リレー制御を行う

例1) 自動着信後、外線電話機の [1] ～ [8]をプッシュするとNo.1～8のリレーがON、放すとOFFする

手順 ①	遠隔操作設定 → リレー制御 → ①ワンプッシュ (モーメンタリー)
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

例2) 自動着信後、外線電話機の

[2]を押すとNo.1のリレーがON、放すとOFF [4]を押すとNo.2のリレーがON、放すとOFF
[6]を押すとNo.3のリレーがON、放すとOFF [8]を押すとNo.4のリレーがON、放すとOFFする

手順 ①	遠隔操作設定 → リレー制御 → ③ワンプッシュ (ジョイスティック)
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

例3) 自動着信後、外線電話機の特定のDTMF信号を受信するとONになり、それ以外のDTMF受信はOFFする
(ここでは特定のDTMF信号を[*]とする)

手順 ①	遠隔操作設定 → リレー制御 → ④指定キーON
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

例4) 自動着信後、外線電話機の [1][*]～[8][*]をプッシュするとNo.1～8のリレーがON、
[1][#]～[8][#]をプッシュするとNo.1～8のリレーがOFFする

手順 ①	遠隔操作設定 → リレー制御 → ⑧ツープッシュ (オルタネート)
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

※リレーのON/OFF状況を、音声またはトーンで確認することが可能です。(音声確認はAVのみ)

遠隔操作設定 → 状態確認 をご参照ください。

例5) 自動着信後、外線電話機の [1]～[8]をプッシュするとNo.1～8のリレーがONし、3秒後にOFFする

手順 ①	遠隔操作設定 → リレー制御 → ②プッシュ遅延OFF
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
〃	「ON時間 (×0.1秒)」入力フォームに30を入力
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

例6) 自動着信後、外線電話機の [1][*]～[8][*]をプッシュするとNo.1～8のリレーが3秒後にON、
[1][#]～[8][#]をプッシュするとNo.1～8のリレーが5秒後にOFFする

手順 ①	遠隔操作設定 → リレー制御 → ⑨ツープッシュ遅延
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
〃	「ONになるまでの時間 (×0.1秒)」入力フォームに30を入力
〃	「OFFになるまでの時間 (×0.1秒)」入力フォームに50を入力
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

例7) 自動着信後、外線電話機のTK-9610BTのO1～O4接点を、プッシュボタンに対応するバイナリコード
でON/OFFし、O5接点を、何れかのボタンをプッシュしている間、ONする (表5-1参照)

手順 ①	遠隔操作設定 → リレー制御 → ⑫バイナリ
手順 ③	「呼出信号の検知回数」入力フォームに任意の数値を入力
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

※O1～O4接点は、最後にプッシュしたボタンに対応するバイナリコードを保持します

表5-1 プッシュボタンとO1～O4の関係

プッシュボタン	O1	O2	O3	O4	プッシュボタン	O1	O2	O3	O4
D	OFF	OFF	OFF	OFF	8	OFF	OFF	OFF	ON
1	ON	OFF	OFF	OFF	9	ON	OFF	OFF	ON
2	OFF	ON	OFF	OFF	0	OFF	ON	OFF	ON
3	ON	ON	OFF	OFF	*	ON	ON	OFF	ON
4	OFF	OFF	ON	OFF	#	OFF	OFF	ON	ON
5	ON	OFF	ON	OFF	A	ON	OFF	ON	ON
6	OFF	ON	ON	OFF	B	OFF	ON	ON	ON
7	ON	ON	ON	OFF	C	ON	ON	ON	ON

■ 6 各種動作状態の接点出力

本装置の動作状態の変化で、リレーのON／OFFを行います。

- ・オプションのリレーボード（TK-9610BT）を接続すると、8回路リレーのON／OFFができます。
- ・オプションのリレーボード（TK-9610BSI）2枚を接続すると、16回路リレーのON／OFFができます。

★上記何れの場合も、各リレーボード接続に当たっては、

前項「■ 5 プッシュボタン操作でON／OFFを行う設定」で示した電源接続の手順に従ってください。

例)

- ・No.1 リレーを、オフフック（回線接続）中、ONにする
- ・No.2 リレーを、併設電話機が使用中であればON、使用していなければOFFにする
- ・No.3 リレーを、呼出信号（リング）を検知する度4秒間ONにする
- ・No.4 リレーを、通話可能な間ON、通話できない間OFFにする
- ・No.5 リレーを、着信時と、発信時に着信先の応答を検知するとON、オンフック（回線切断）でOFFにする
- ・No.6 リレーを、暗証番号が一致するとON、オンフック（回線切断）OFFにする
- ・No.7 リレーを、ペアリングしている携帯端末が使用中であればON、使用していなければOFFにする
- ・No.8 リレーを、グループ通報を開始するとON、グループ通報終了条件を満たした時点でOFFにする

●上記の動作を、TK-9610BTのNo.1～8のリレー動作で行う場合

手順 ①	状態監視設定 → 本体の動作状態変化でリレーを駆動-1
手順 ④'	「本体に送って保存」を行い、電源を入れ直す

■ 7 併設電話機の使い方あれこれ

併設電話機をオフフックするだけで、予め登録した電話番号への自動ダイヤルが可能です。
相手先応答後は、併設電話機で通話ができ“電話回線を使ったインターホン”の様な使い方が出来ます。

例1) 併設電話機をオフフックすると「0827-24-0081」の電話番号に自動呼び出しを行う場合

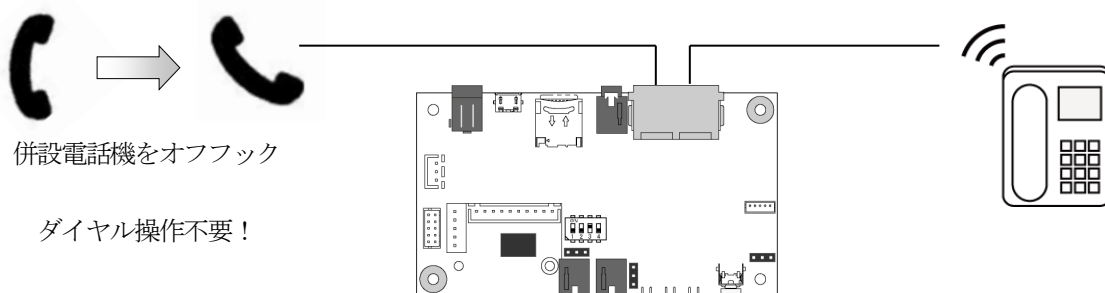
相手先がオフフックすると音声メモリーNo.0が自動再生されます。(A Vのみ)

手順 ①	通報設定 → ①併設電話機のオフフックでグループ通報
手順 ③	「呼出先1の電話番号」入力フォームに 0827240081 を入力

例2) 併設電話機をオフフックすると、まず「〇〇を呼び出していますのでしばらくお待ちください」等の応答メッセージを発しその後自動呼出しを始める。「0827-24-1444」の電話番号に自動呼び出しを行う場合 (A Vのみ)

予め音声メモリーNo.1に、「〇〇を呼び出していますのでしばらくお待ちください」等のメッセージを[アップロード](#)します。

手順 ①	通報設定 → ②併設電話機のオフフックで案内付通報
手順 ③	「呼出先1の電話番号」入力フォームに 0827241444 を入力

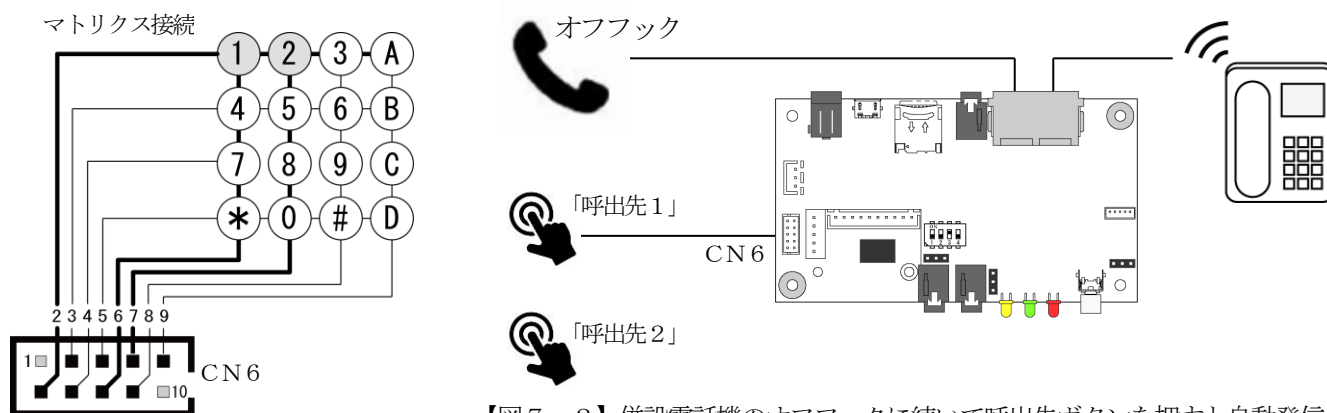


【図7-1】併設電話機のオフフックで自動発信

例3) 併設電話機をオフフックし、ワンプッシュボタン操作で登録先へダイヤルを行う場合 (ワンプッシュダイヤル)

呼出先1を押すと「0827-24-0081」へ、呼出先2を押すと「027-24-1444」へダイヤルの場合

手順 ①	通報設定 → ④併設電話機をオンフックしワンプッシュ通報
手順 ③	「呼出先1の電話番号」入力フォームに 0827240081 を入力
手順 ③	「呼出先2の電話番号」入力フォームに 0827241444 を入力



【図7-2】併設電話機のオフフックに続いて呼出先ボタンを押すと自動発信

「呼出先1」はボタン①に対応し、CN 6の2-6に

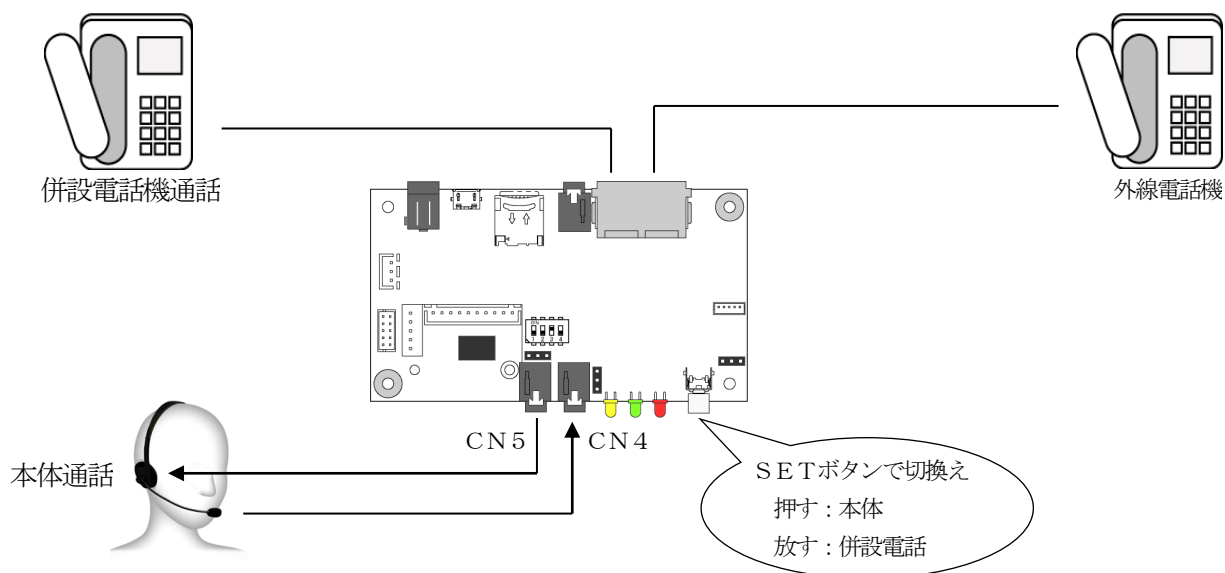
「呼出先2」はボタン②に対応し、CN 6の2-7に接続を行います。(太線で示しています)

同様にマトリクス接続で最大16の呼出先を設定できます。

(オプションキーボード KB-96Bを使用する場合はストレートケーブルで接続)

例4) 相手先との通話を、本装置に接続したヘッドセットと、併設電話機で切換え運用を行う場合

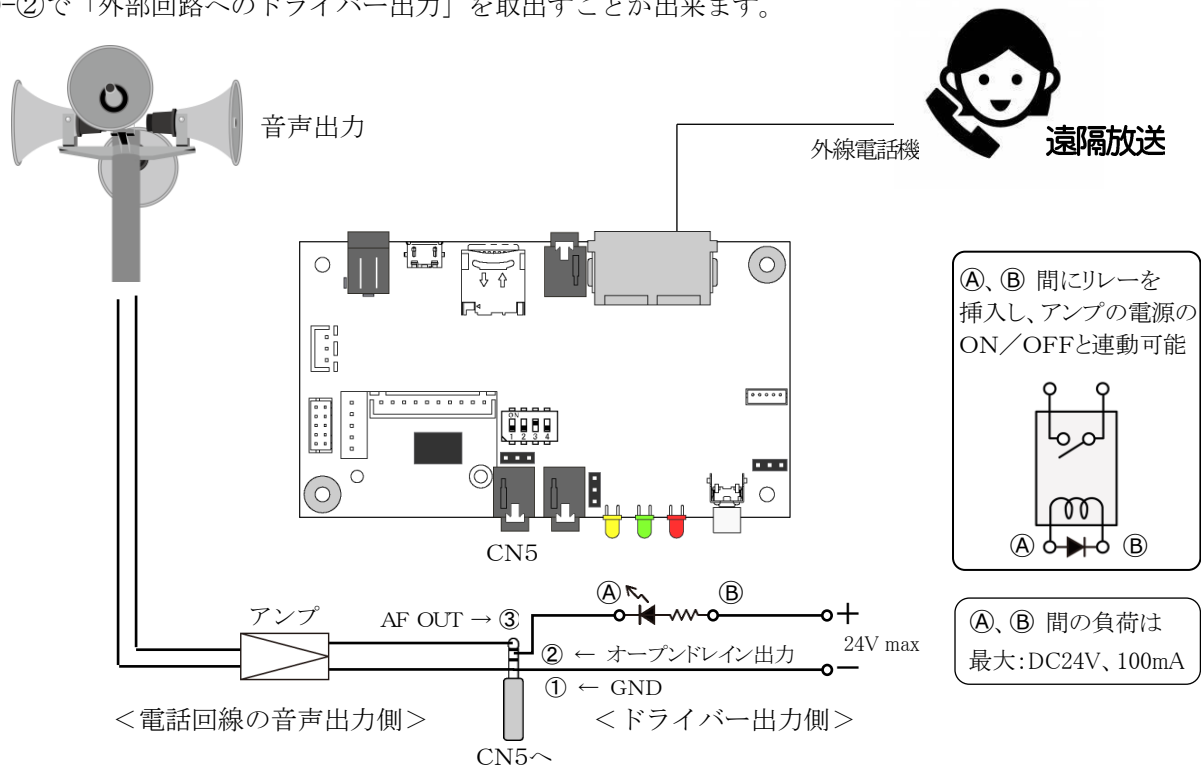
手順 ①	併設電話機設定 → 「併設電話機通話」と「本体通話」の切換え
------	--------------------------------



【図7-3】相手先との通話を、「本体通話」と「併設電話機通話」に切換え

■ 8 外線電話機から遠隔放送を行う設定

【図 8－1】の接続で、回線成立後、外線電話機からの遠隔放送が可能です。
CN 7 の受話信号出力端子より
①-③で「電話回線の音声出力」
①-②で「外部回路へのドライバー出力」を取出すことができます。



【図 8－1】 外線電話機を使つての遠隔放送

例 1) 自動着信後、「暗証番号」を送信。暗証番号承認後、放送を行う。オンフックで放送終了。

手順 ①	遠隔操作設定 → 遠隔放送 → ②基本放送(暗証番号)
手順 ③	「呼出番号の検出回数」入力フォームに任意の回数を入力
〃	「暗証番号」の入力フォームに任意の番号を入力 (最大28桁)

例 2) 自動着信後、「暗証番号」を送信。暗証番号承認後、放送を行う。
放送の前・後にはチャイムを入れる。後チャイムが終われば自動でオンフックする。

[準備]
音声メモリーNo.1に“放送前のチャイム音”を、音声メモリーNo.2に“放送後のチャイム音”を登録します。
書き込み時に「この音声はAF OUTにも再生」のチェックボックスに☑を入れて下さい。【図 1-4】参照

[動作]
放送前のチャイム音は着信時に自動起動し、放送後のチャイム音は#00の押下で起動します。
チャイム終了後は自動でオンフックします。

手順 ①	遠隔操作設定 → 遠隔放送 → ⑤チャイムを付加 (暗証番号)
手順 ③	「呼出番号の検出回数」入力フォームに任意の回数を入力
〃	「暗証番号」の入力フォームに任意の番号を入力 (最大28桁)

例 3) 「識別自動着信機能」により、登録された電話番号からの遠隔放送を行う。(ナンバーディスプレイ回線に接続)

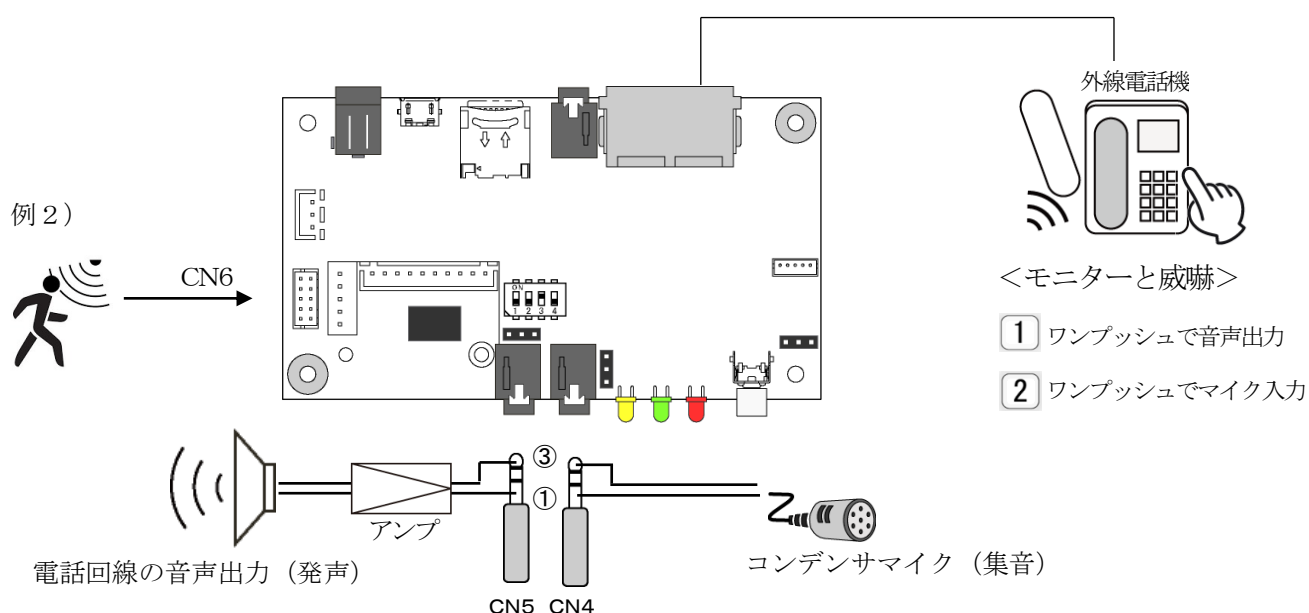
手順 ①	遠隔操作設定 → 遠隔放送 → ⑥チャイムを付加 (登録回線)
手順 ③	「相手先の電話番号」入力フォームに電話番号を入力
〃	「呼出番号の検出回数」入力フォームに任意の回数を入力

【参考】前ページの「遠隔放送」では、メッセージ発声時以外の出力を停止し、ノイズ対策として利用することが可能です。CN 7 から出力される音声信号が設定レベル以下の時は消音する。(バージョン 1. 8 0以降対応)

手順 ⑦	AT!VR3	選択番号 40 の状態で受話出力を制御
〃	AT!D40=113	信号検出中のみ受話出力をON
〃	ATS82=24	信号検知レベルの調整 範囲は 0～39 (‐30dBm～‐69dBm、‐1dBm 単位) で 12 (‐42dBm) がデフォルト
〃	ATS83=50	信号検知持続時間の調整 範囲は 0～255 (0 秒～2. 55 秒、0. 01 秒単位) で 50 (0. 5 秒) がデフォルト
〃	AT!VT1	信号遅延をかけ、受話出力の頭切れを緩和する

■ 9 プッシュボタン操作で受話出力や送話入力 of 切り換えを行う設定

【図 9 – 1】の接続で、外線電話機のプッシュボタン操作により本装置設置場所のモニターと威嚇を行うことが出来ます。プッシュボタン式電話機のプッシュボタン操作で、送話入力 (AF IN) と受話出力 (AF OUT) の切り換えを行います。



【図 9 – 1】 外線電話のプッシュボタン操作で “モニター” と “威嚇” の切り換え

例 1) 自動着信後、外線電話機のプッシュボタン操作により設置場所の “モニターと威嚇” を行う。

〔1〕で発声、〔2〕で集音

手順 ①	音声再生 → ① 「送話入力」と「受話出力」を切替える
手順 ③	「呼出番号の検出回数」入力フォームに任意の回数を入力

例 2) 本装置に接続されたセンサー等が反応して、CN 6 のNo2 がOFF からONに変化したとき、通報を行う。

電話番号は「0827-24-0081」、通報手順は「応答のみ」、応答時間は3秒とする。

着信を受けた外線電話機は、プッシュボタン操作により設置場所の “モニターと威嚇” を行う。

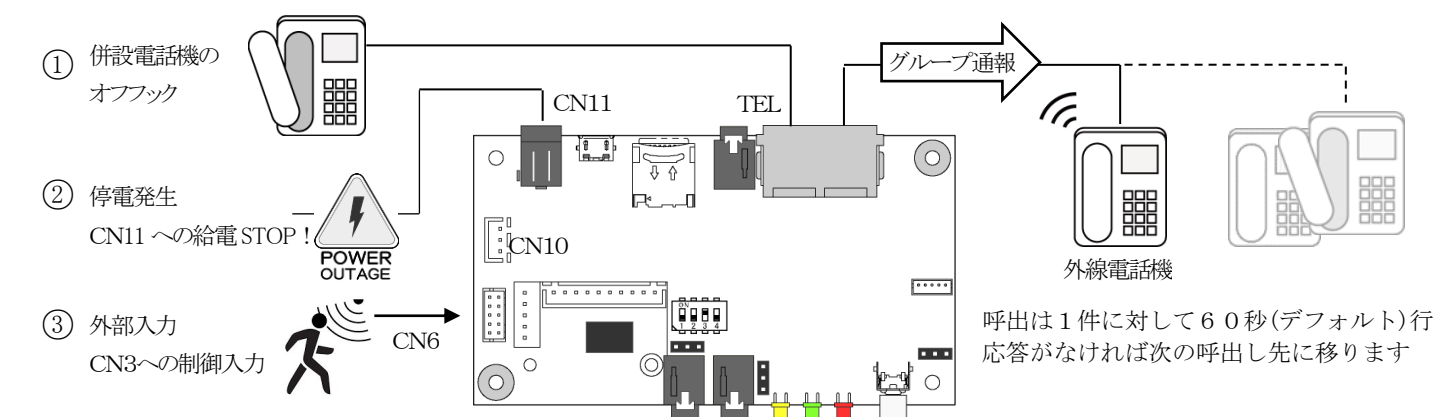
〔1〕をワンプッシュで発声、〔2〕をワンプッシュで集音

手順 ①	通報設定 → ⑧制御入力変化による自動通報-3
手順 ③	「通報先 1 の電話番号」入力フォームに 0827240081 を入力
〃	「通報手順」入力フォームに 0 を入力
〃	「制御入力変化応答時間」入力フォームに 300 を入力

※回線接続時と、〔1〕や〔2〕以外をプッシュすると、AF IN と AF OUT は、両方ミュートになります。

■ 10 グループ通報を行う設定

【図 10-1】の接続で、グループ通報を行います。通報源となるイベントには以下の3種類があげられます。



【図10-1】3種類のイベントによるグループ通報

① 併設電話機のオフフックでグループ通報を行う場合

例) 併設電話機をオフフックしたら、電話番号「0827-24-0081」と「0827-24-1444」に通報する。
通報手順は「応答のみ」とする。

手順 ①	通報設定 → ①併設電話機のオフフックでグループ通報
手順 ③	「呼出先1の電話番号」の入力フォームに0827240081を入力
〃	「呼出先2の電話番号」の入力フォームに0827241444を入力
〃	「通報手順」の入力フォームに0を入力

② 停電を感知してグループ通報を行う場合 (CN10に対してバックアップ電源の準備が必要です)

例) 30秒間の停電を感知したら、電話番号「0827-24-0081」と「0827-24-1444」に通報する。
通報手順は「グループ全員応答」とする。音声メモリーNo.1に録音したメッセージを再生する。

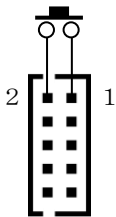
手順 ①	通報設定 → ⑤停電発生感知による自動通報
手順 ③	「通報先1の電話番号」の入力フォームに0827240081を入力
〃	「通報先2の電話番号」の入力フォームに0827241444を入力
〃	「通報手順」の入力フォームに2を入力
〃	「制御入力変化応答時間」の入力フォームに3000を入力



③ 制御入力の変化を感知してグループ通報を行う場合

例) CN6のNo.2がOFFからONに変化したら、5秒後に、電話番号「0827-24-0081」と「0827-24-1444」に
通報する。通報手順は「暗証番号確認」とし暗証番号を5678にする。
その後、音声メモリーNo.2に録音したメッセージを再生する。(AVのみ)

手順 ①	通報設定 → ⑦制御入力変化による自動通報-2
手順 ③	「通報先1の電話番号」の入力フォームに0827240081を入力
〃	「通報先2の電話番号」の入力フォームに0827241444を入力
〃	「暗証番号」の入力フォームに5678を入力
〃	「制御入力変化応答時間」の入力フォームに500を入力



CN3のNo.2をONした場合

■ 1 1 2 4 V回線で使用する時の設定

通常、2線式アナログ電話回線は48Vですが、内線交換機（PBX）に接続して使用されると、24Vの場合があります。
本装置のデフォルト設定は48V回線用にしてあり、24V回線で使用することができません。

※ファームウェアバージョン1.54から対応しています。（2014年9月18日以後の出荷分）

以前のバージョンでは、設定は変更できますが、24V回線用にはなりません。

●ファームウェアのバージョンを確認する場合

手順 ⑦	ATI3	ファームウェアのバージョンを確認
------	------	------------------

●回線電圧を確認する場合

手順 ⑦	ATI19	回線電圧を確認する
------	-------	-----------

●24V回線で使用する場合

手順 ⑦	ATS50=160	24V回線で使用する
------	-----------	------------

●48V回線で使用する場合

手順 ⑦	ATS50=219	48V回線で使用する
------	-----------	------------

■12 疑似交換機のご案内

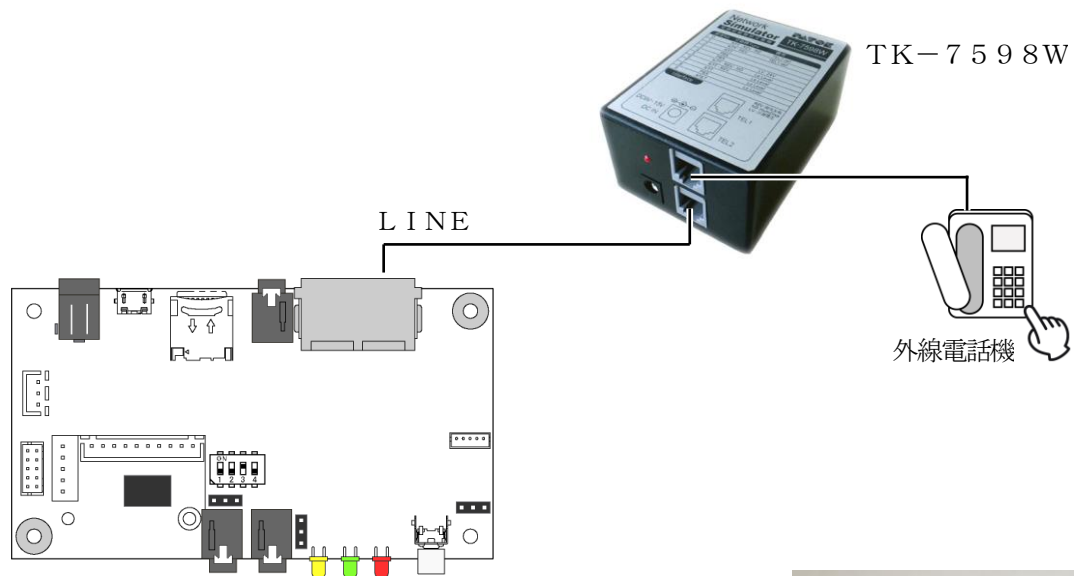
本製品は、電話網のシミュレーションを行うための疑似交換機で、日本の発信電話番号受信機能(ナンバーディスプレイ)に対応しています。

以下の機能を備え、本装置の各種設定や通信確認に威力を発揮します。

- 電話機やFAX等の電話端末設備を、加入者回線に接続することなく試験やデモンストレーションができます。
- 代表的な日本交換機の場合、設定により、信号アッテネータが入りますので、厳しい試験ができます。
- 設定により、内線(外線「0」発信)の48V回線または24V回線のシミュレーションができます。
- 設定により、代表的な日本NTT交換機と米国AT&T交換機の信号を発生できます。
- 各回線は独立設定のため、1回線は代表的な日本NTT交換機、もう1回線は米国AT&T交換機のような使い方ができます。
- 本装置は、2線式電話端末設備用です。故障の原因となる場合がありますので2線式電話端末設備以外には接続しないで下さい。
- 小型・軽量です。

[TK-7598W] 幅 60mm×高さ 40mm×奥行 85mm(100g)

[TK-7598WH] 幅 125mm×高さ 32mm×奥行 80mm(150g)



TK-7598WH

PATOK

松本無線パーツ株式会社岩国

〒740-0018

山口県岩国市麻里布町4-14-24

TEL (0827) 24-0081(代)

FAX (0827) 24-1444

2024. 1